



FujiPharma

トップインタビュー

## 着実な成長による企業価値の向上

〈特集〉

### 中期経営計画進捗状況

### Fuji Pharmaを知る vol.2

～キーワードで知るFuji Pharma～

### GOOD to GREAT vol.2

ジェネリックQ&A vol.2

「ジェネリック医薬品は  
どのくらい普及しているの?」



# Fuji Pharma Letter

第47期第2四半期報告書 2010.10.1～2011.3.31



## 中期経営計画の着実な実行で、 企業価値の向上に努めてまいります。

代表取締役社長

今井 博文

品の一部製剤の供給が不安定となる状況が続いており、代替品として当社が販売しております同一成分製剤の増産を行っております。また当社においては、その中でも緊急性の高い製剤、代替のきかない製剤を優先的に増産すると共に、患者様や医療機関様の必要とされる数量を安定的に供給できるよう、他製薬メーカー様とも定期的に協議を行いながら、製品供給の安定化に努めております。

当社では被災者の皆様の救済活動の支援に義援金を贈ると共に、被災地の一日も早い復興を祈念し、製薬メーカーとして可能な限りの支援を引き続き行ってまいります。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。また、この度の東日本大震災により亡くなられた方々に、謹んでご冥福をお祈り申し上げますと共に、被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

今回の震災では、当社も仙台営業所が被災いたしました。幸い人的被害はなく、また製造拠点は富山県富山市にあるため当社の生産活動が滞ることはありませんでした。しかし、他製薬メーカー様が被災された影響から、市場で先発医薬

**増加するDPC対象病院でのジェネリック医薬品需要増により造影剤販売が増加。ルナベル<sup>®</sup>配合錠の効能追加も売上増に貢献しました。**

医療用医薬品業界は、引き続きジェネリック医薬品の普及が促進される中、国内新薬メーカーや外資系大手ジェネリックメーカー等によるジェネリック医薬品市場への参入により、競合状況は厳しさを増しています。

そのような中、当社は、ジェネリック医薬品の需要が高いDPC<sup>\*1</sup>(入院医療包括評価)対象病院をターゲットに、注射

### 用語解説

※1 DPC: Diagnosis Procedure Combination=診断群分類とは、医療費の定額支払い制度に使われる評価方法。入院医療包括的診療報酬制度として、平成15年から厚生労働省が推進し、現在では全国で導入する病院が増加しています。

※2 月経困難症: 日常生活に支障をきたすほどの生理痛を生じる症状。臓器に病気があるために起こる器質性月経困難症と、ホルモンの影響で起こる機能的月経困難症があります。

剤を中心とする急性期医療分野の製品の営業活動を展開していますが、当第2四半期累計期間は、引き続きDPC対象病院が増えたことに加え、DPC対象病院におけるジェネリック医薬品の需要が増加したことで、X線やCT画像撮影に必要な血管・尿路等の造影剤の販売が伸びました。また、急性期医療分野に加えて、当社のもう一つの重点領域である女性医療分野においては、継続的に伸長している新薬「ルナベル<sup>®</sup>配合錠」（子宮内膜症に伴う月経困難症・機能性月経困難症治療薬）が、昨年12月に機能性月経困難症<sup>\*2</sup>の効能を追加取得し、売上増加に貢献しました。その結果、当第2四半期累計期間の売上高は前年同期比約12%増の107億円、営業利益・経常利益ともに同約5%増の16億円、四半期純利益は同約7%増の10億円と、業績は順調に推移しました。当第2四半期末の株主の皆様への配当金も、前期末に続き1株当たり17円といたしました。

### 下半期には新たに製品の上市を予定。計画を着実に遂行することで、企業価値向上を実現してまいります。

通期に向けては、期初に公表した業績予想を変更しておりませんが、震災の影響を少なからず受けることが想定されます。他製薬メーカー様の被災で、当社製品の増産による売上増は若干見込まれるものの、被災地では多くの病院で患者様の受け入れや診療そのものが困難な状況が続いており、東日本全体には、マインドとして急を要さない受診を抑制する傾向も見られています。

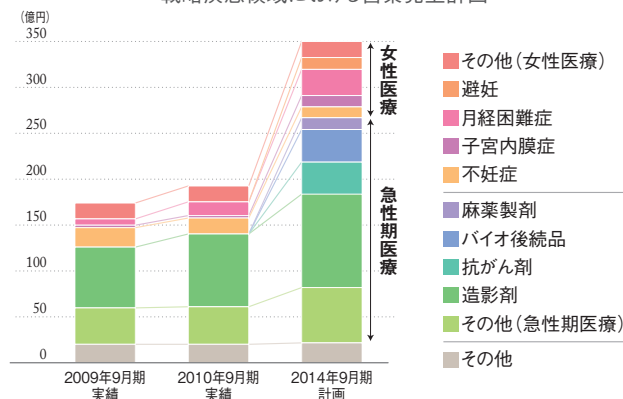
そのような中、当社としては、計画として掲げたことを着実に遂行していきたいと考えています。下半期には、ジェネリック医薬品としては国内初となる経口避妊薬の上市を予定しているほか、現在建設中の富山工場の第5製剤棟（高活性注射剤

工場棟）も、7月の竣工式、11月の正式稼働に向け準備を進めます。

2011年9月期は、現在推進中の5か年中期経営計画の2年目になります。最終年度の2014年9月期に売上高350億円の達成を目標に掲げ、「新たな注射剤を軸とする重点疾患領域の拡大」「女性医療のリーディング・カンパニーの確立」「次の半世紀に向けた新たな経営体制の構築」の3つのテーマを中心に取り組む中期経営計画を、引き続き推進していきます。また、今般の震災を教訓として、製造・物流・情報システムなどに関してリスクの低減・分散を図ることも急務であると考えており、より強い会社を目指しその体制の整備もあわせてまいります。

競争環境も厳しさを増し、震災の影響も依然不透明な中ではありますが、掲げた計画を着実に実行し、企業価値の向上に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

中期経営計画「GOOD to GREAT」  
戦略疾患領域における営業売上計画



中期経営計画

# GOOD to GREAT

各部門の進捗状況

当社では現在、2014年9月期を最終年度とした中期経営計画を実行中です。「GOOD to GREAT」をテーマとし、永続的に成長する企業を目指しています。各部門それぞれに目標を据えて活動していますが、今回はそれぞれの部門での進捗状況をご報告いたします。

研究開発部門

研究開発部門では、経口避妊薬や抗がん剤等の後発品に加え、バイオ後続品や女性ホルモン製剤の開発を進めています。女性ホルモンについては、天然型プロゲステロンについて、注射以外の新たな投与経路・適応で新薬を開発することが具体化してきました。既存の合成プロゲステロンに比べ、副作用のリスクが低い天然型プロゲステロンを使用した新薬を開発することで、女性医療分野のさらなる拡充を目指します。

製造部門

製造部門における重要課題は、本年秋の本格稼働に向けた高活性注射剤工場棟の建設です。建屋自体の工事は完了し、各生産設備の搬入や据付もほぼ完了するなど、震災による工事遅延等もなく、順調に建設が進んでいます。7月には各設備メーカー様による性能確認が完了する見込みで、竣工式を同月に実施し、本年11月の正式稼働に向けて着々と準備を進めています。

マーケティング部門

マーケティング部門では、当社の戦略疾患領域となる急性期医療分野と女性医療分野において、継続的に営業のプレゼンスの確立を図っています。その一環として放射線科領域では、新たに救急放射線画像に関する医療従事者向け情報誌『Emergency Imaging』を発刊し、情報提供の強化に注力しております。また、マーケティングの要となるMRIに対する教育・研修を強化するために、教育制度を刷新するプロジェクトを社内に設置しました。

管理部門

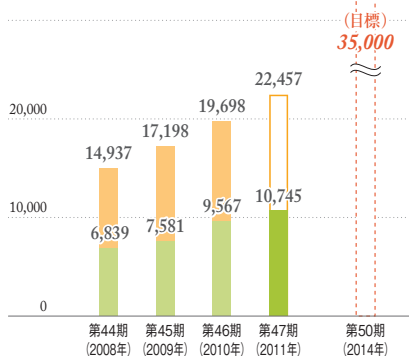
管理部門では、次の半世紀を見据えた新たな経営体制の構築に向け、人事制度の改革を行っております。昨年10月に業績評価と連動した目標管理制度(MBO)を導入すると共に、現在、昇給や昇格の制度の改定を検討しております。また、年次や階層ごとの教育研修制度を整備し、人財の育成に向けて教育訓練を強化してまいります。

当第2四半期のポイント

主力製品群が順調に拡大し、増収増益を達成。

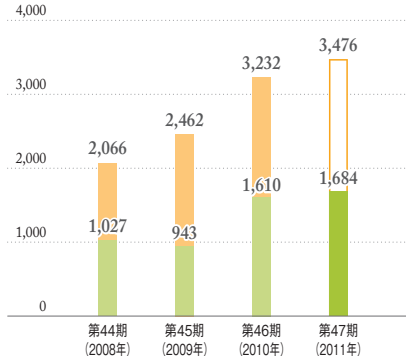
売上高

(百万円)



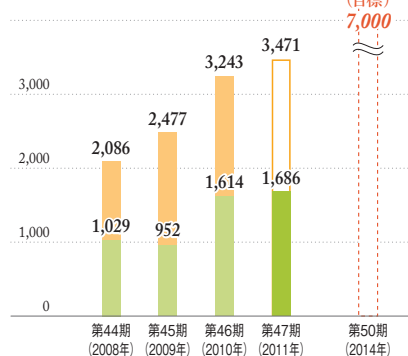
営業利益

(百万円)



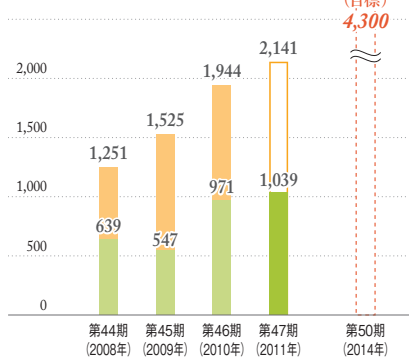
経常利益

(百万円)



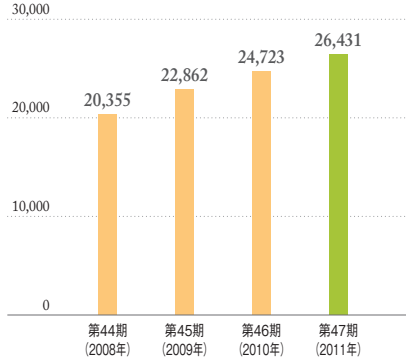
当期純利益

(百万円)



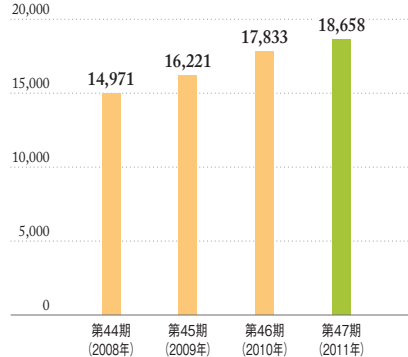
総資産

(百万円)



純資産

(百万円)



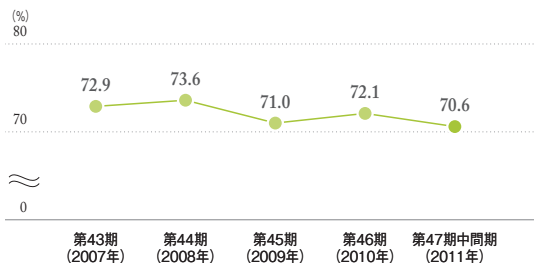
## 財務諸表（要旨）

### ● 四半期貸借対照表

（単位：千円）

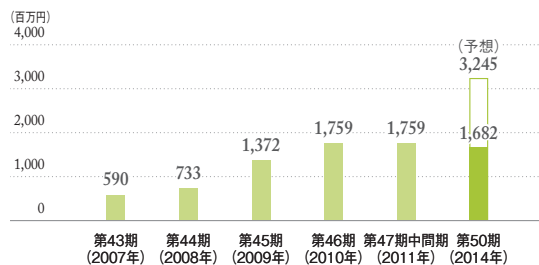
	当第2四半期 (2011年3月31日現在)	前第2四半期 (2010年3月31日現在)	前 期 (2010年9月30日現在)
<b>（資産の部）</b>			
流動資産	16,979,913	15,916,583	16,588,793
現金及び預金	2,413,510	2,980,768	2,592,763
受取手形及び売掛金	8,310,380	7,110,309	7,686,941
たな卸資産	4,926,506	4,664,571	4,875,413
その他	1,329,515	1,160,934	1,433,673
固定資産	9,451,352	7,779,320	8,135,166
有形固定資産	7,249,086	5,419,462	5,901,313
無形固定資産	1,116,031	1,225,774	1,141,459
投資その他の資産	1,086,234	1,134,083	1,092,394
資産合計	26,431,265	23,695,904	24,723,959
<b>（負債の部）</b>			
流動負債	6,918,188	5,874,254	6,058,069
固定負債	854,743	796,054	832,567
負債合計	7,772,932	6,670,309	6,890,636
<b>（純資産の部）</b>			
株主資本	18,657,502	17,030,714	17,836,363
評価・換算差額等	830	△5,119	△3,039
純資産合計	18,658,333	17,025,594	17,833,323
負債純資産合計	26,431,265	23,695,904	24,723,959

### 自己資本比率



前事業年度末に比べ四半期純利益の計上等により純資産は825百万円増加したものの、借入金1,400百万円が増加したこと等により自己資本比率は1.5ポイント低下しております。

### 設備投資



新注射剤工場（第5製剤棟）は今秋の正式の稼働を目指し、順調に工事が進んでおります。第5製剤棟へ今期は第2四半期末までに1,550百万円設備投資を行っております。



詳しくはIRサイトをご覧ください。

<http://www.fujipharma.jp/ir/>

## ● 四半期損益計算書

(単位：千円)

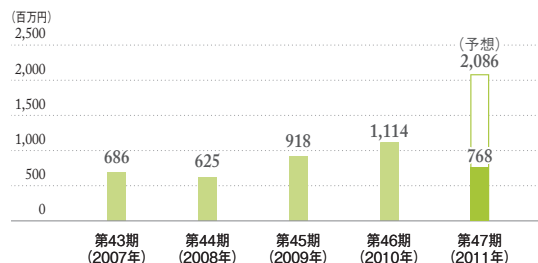
	当第2四半期累計期間 (2010年10月1日から 2011年3月31日まで)	前第2四半期累計期間 (2009年10月1日から 2010年3月31日まで)	前 期 (2009年10月1日から 2010年9月30日まで)
売上高	10,745,316	9,567,070	19,698,482
売上原価	5,743,871	5,125,558	10,619,091
売上総利益	5,001,444	4,441,512	9,079,390
販売費及び一般管理費	3,316,861	2,830,920	5,846,546
営業利益	1,684,582	1,610,592	3,232,844
営業外収益	6,660	6,410	15,308
営業外費用	4,516	2,546	4,714
経常利益	1,686,726	1,614,456	3,243,439
特別利益	—	40,448	40,322
特別損失	26,073	64,195	127,542
税引前四半期純利益	1,660,653	1,590,709	3,156,219
法人税、住民税及び事業税	497,809	527,366	1,321,903
法人税等調整額	122,914	92,230	△109,756
四半期純利益	1,039,929	971,112	1,944,071

## ● 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

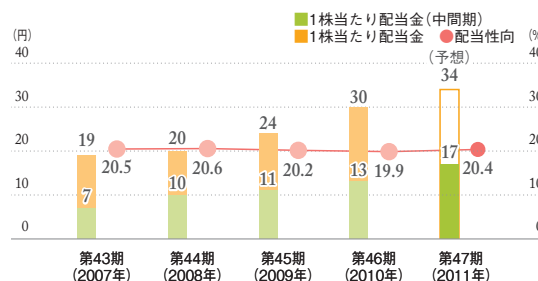
	当第2四半期累計期間 (2010年10月1日から 2011年3月31日まで)	前第2四半期累計期間 (2009年10月1日から 2010年3月31日まで)	前 期 (2009年10月1日から 2010年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	450,299	1,412,932	2,168,237
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,811,100	△528,430	△1,404,419
財務活動による キャッシュ・フロー	1,181,725	△167,204	△334,338
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△179,075	717,297	429,479
現金及び現金同等物の 期首残高	3,097,674	2,668,194	2,668,194
現金及び現金同等物の 四半期末残高	2,918,599	3,385,492	3,097,674

## 研究開発費



研究開発費は、G-CSF 製剤の開発を中心に768百万円使用しております。

## 1株当たり配当金・配当性向



当第2四半期累計期間の業績は利益面につきましては計画を上回って順調に推移し、中期経営計画では第50期に30.0%の配当性向を目標としております。2011年9月期の業績予想に変更はありません。配当につきましては、当初の計画通り当第2四半期(中間期)は17円とし、期末についても当初の計画通り17円を予定しています。

# Fuji Pharmaを知る

## ～キーワードで知るFuji Pharma～

Vol.2

当社の主要事業のひとつである女性医療。

上場前からの主力事業であり、現在もなお当社が強みを発揮する分野です。

今回は女性医療における当社の強みと展望を、キーワードを元に解説してまいります。

### 1 産婦人科ホルモン療法

女性は10代の思春期から、月経、出産、閉経後の更年期に至るまで、人生の局面で女性特有のさまざまな症状や疾患に悩まされます。富士製薬工業は、不妊症をはじめ、月経困難症、子宮内膜症、避妊、周産期、更年期障害などの産婦人科医療分野へホルモン剤を中心とする新薬やジェネリック医薬品を継続的に投入し、現在では50数品目に及ぶ豊富な品揃えで幅広い年代の女性の健康をサポートしています。また、ホルモン剤は生産工程での取り扱いが難しい高生理活性物質で、高い専門性が求められますが、そうした参入障壁の高い医薬品を開発・製造する力を有しているのも富士製薬工業の大きな強みです。こうした強みを活かし、産婦人科ホルモン療法の全てをサポートすることで、女性医療のリーディングカンパニーとしての地位確立を目指しています。



<http://seiritsu-navi.com/>  
生理痛情報ナビ

### 2 ジェネリック医薬品と新薬の相乗的モデル

女性医療分野で戦略品と位置付けているのが、月経困難症の新薬とジェネリック医薬品の経口避妊薬です。月経困難症新薬としては、2008年6月より「ルナベル®配合錠」（子宮内膜症に伴う月経困難症治療薬）をノーベルファーマ株式会社より導入し販売していますが、2010年12月より新たに「機能性月経困難症」の効能を追加し、月経痛に悩むより多くの女性のQOL（Quality of Life：生活の質）の向上に貢献しています。また、今年度中には、ジェネリック医薬品として国内初となる経口避妊薬の販売を開始する予定です。そのほかに女性ホルモン剤の新薬・DDS製剤（徐放型注射剤）等の開発も進めており、2014年9月期の当社の女性医療分野での売上を、2010年9月期の1.5倍の90億円（売上全体の約25%）まで引き上げるべく、注力してまいります。



## 株主スクエア

株主様からのご質問やご意見に当社社長今井がお答えします。

持田製薬株式会社との業務提携およびテルモ株式会社との資本・業務提携について、現在の状況や今後の見通しなどを教えてください。

持田製薬株式会社とは、バイオ後続品(G-CSF製剤)の共同開発を行っていますが、昨年後半より臨床第II/III相試験を実施しており、2011～12年には承認申請を行う予定です。テルモ株式会社とは、同社の注射剤容器等における先進的技術と当社の医薬品生産技術を融合させたD&D\*抗がん剤等の共同開発を目指し、候補品目の具体化に向けて検討を続けています。

\*D&D: Drug & Deviceの略で、医薬品と医療器具(容器等)を融合させた付加価値のある医薬品開発を目指しています。

株主還元策について教えてください。

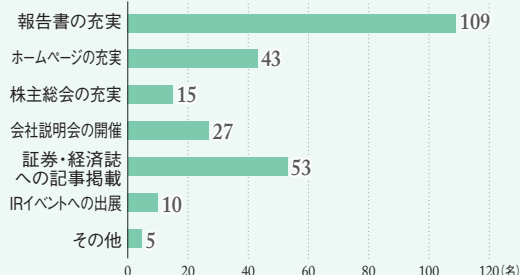
株主還元策については、将来成長に向けた内部留保とのバランスを踏まえた上で、業績と配当性向を総合的に勘案しながら、安定的かつ継続的に配当を行う方針としています。配当性向は、これまでの約20%の水準から、中期的には30%まで高めてまいります。引き続き株主価値の向上に努めてまいりますので、変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

期末の報告書で実施しておりますアンケートでは毎回多くの株主の皆様からご意見を頂戴しております。今後も株主の皆様からの貴重なご意見を真摯に受け止め、今後の報告書制作をはじめIR活動に反映してまいります。アンケートは定期的の実施してまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

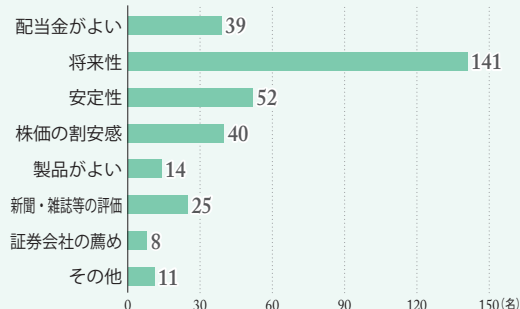
### ◆ 株主アンケート集計結果 ◆

アンケート配布2,379件/回答184件(回収率7.73%)

#### ◆ 情報提供方法の希望 (複数回答可)



#### ◆ 株式の購入理由 (複数回答可)



## TOPICS

この度当社は本社並びに東京支店を下記住所に移転しました。分散していた機能を集約したことにより更なる業務効率・部門間のコミュニケーションの向上を図ります。

〈移転先〉

東京都千代田区三番町5番地7 精糖会館6階



## ● 会社概要

会社名 富士製薬工業株式会社 (Fuji Pharma Co., Ltd.)  
 所在地 〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7  
 設立 1965年4月  
 資本金 16億1,695万円  
 事業内容 医療用医薬品の開発・製造・販売  
 (注射剤、内用剤、外用剤、診断薬)  
 役員 代表取締役社長 今井 博文 取締役 (社外) 小沢 伊弘  
 常務取締役 広見 覚 取締役 (社外) 内田 正行  
 常務取締役 徳永 賢一 常勤監査役 (社外) 中村 稔  
 取締役 上出 豊幸 監査役 (社外) 三村 藤明  
 取締役 三橋 厚弥 監査役 (社外) 佐藤 明  
 社員数 509名  
 事業所 本社：東京  
 支社：東京、名古屋、大阪、福岡  
 営業所：札幌、仙台、富山  
 工場：富山

## ● 株式等の状況

発行可能株式総数 28,220,000株  
 発行済株式総数 12,870,000株  
 株主数 2,648名

## 株主メモ

事業年度 毎年10月1日から翌年9月30日まで  
 定時株主総会 毎年12月開催  
 基準日 定時株主総会 毎年9月30日  
 期末配当金 毎年9月30日  
 中間配当金 毎年3月31日  
 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日  
 公告掲載新聞 日本経済新聞  
 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
 住友信託銀行株式会社  
 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲二丁目3番1号  
 住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 事務取扱場所 (郵便物送付先)  
 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 (電話照会先)  
 ☎ 0120-176-417  
 (インターネットホームページ URL)  
<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>  
 上場証券取引所 株式会社大阪証券取引所(ジャスダック市場)

## ● 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
今井 博文	2,025,000	15.73
三井物産株式会社	1,930,600	15.00
有限会社FJ プランニング	1,925,000	14.95
テルモ株式会社	643,500	5.00
今井 道子	639,000	4.96
新井 規子	620,000	4.81
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	498,500	3.87
ビービーエイチ ポストン・ハートランド パリュール ファンド、インク、	455,300	3.53
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	213,100	1.65
富士製薬工業株式会社 従業員持株会	201,990	1.56

## ● 所有者別株式分布



金融機関	1,213,200株	9.43%
証券会社	111,947株	0.87%
その他の法人	4,802,200株	37.31%
外国法人等	1,090,100株	8.47%
個人その他	5,652,543株	43.92%
自己名義株式	10株	0.00%

### ● 第47期中間配当金のお支払いについて

第47期中間配当金は、同封の「第47期中間配当金領収証」によりお支払いいたしますので、お近くのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局(銀行代理業者)で払渡期間内(平成23年6月1日から平成23年7月1日まで)にお受け取りください。なお、振込先をご指定の方には、「第47期中間配当金計算書」及び「配当金のお振込先について」を同封いたしますので、ご確認くださいようお願い申し上げます(株式数比例配分方式を選択された場合の配当金のお振込先につきましては、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください)。

### ● 上場株式配当等のお支払いに関する通知書について

租税特別措置法の平成20年改正(平成20年4月30日法律第23号)により、平成21年1月以降に当社がお支払いする配当金について、配当金額や徴収税額等を記載した「支払通知書」を株主様宛にお送りすることになりました(同封の「第47期中間配当金計算書」が、「支払通知書」を兼ねることになります)。なお、「支払通知書」は、株主様が確定申告をする際の添付資料としてご使用いただくことができます(株式数比例配分方式を選択されている場合は、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください)。

# GOOD to GREAT

vol.2

生産管理グループ 生産管理課 Y・Hさん

『GOOD to GREAT』をテーマに掲げる5か年中期経営計画は、創業から半世紀の間に培われたコア事業の総仕上げと共に、次世代の成長戦略を具体化し、富士製薬工業を永続的な成長企業へと進化させる取り組みです。ここでは、製造業のコアとなる製品や原材料などの生産管理を行う生産管理課メンバーの声をお届けします。

**中** 期経営計画の中で富士製薬工業にとって1つの大きな布石となるのは、今秋に稼働予定の第5製剤棟の建設です。この第5製剤棟は、海外展開を見定めて、日・米・欧三極のGMP（医薬品及び医薬部外品の製造管理や品質管理の基準）のモデルとなる工場を目指しています。今期私は、この第5製剤棟に設置される自動倉庫設備と新物流システムの構築に取り組んできました。

物流部門は、製造ラインと販売の双方のスタート地点でもあるため、物流部門でひとつ間違いが起きれば、製造工程にお客様にも、多大なご迷惑をおかけしてしまいます。

私は、原材料・製品の入出荷及び保管の管理責任者として、ロジスティクスと信頼される保管管理を重要なテーマだと考え、年々増加する物流量に対して、より信頼される業務ができるように日々取り組んでいきます。

先般の東日本大震災では、震災ボランティアに行くことを考えていた折、上司から「H君にはH君しかできない方法で貢献することもあるよ」と言われたとき、「医薬品を通じて社会に貢献する」という当社の社訓をまず思いました。物流部門のメンバーと共に、少しでも早く供給できるよう、努めてきました。

震災直後に仙台営業所の電話から聞こえる音、TVで流された信じられない映像を見た時は言葉を失いました。部門や

世代を跨いだ同志たちと、早々に「有志の会」を立ち上げ、支援活動を行えたことは、当社のフラットな良い部分だと思います。

多くの方々からご支援やご協力を頂き、当社の伝統である「温かさ」「思いやり」を深く感じました。本当に感謝しております。

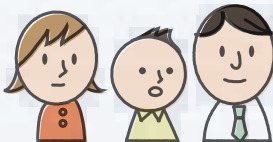
当社では、新入社員研修として伝統となっている「登山研修」があります。登山は人生の縮図とはよく言われますが、私自身も山から教えられることが常にあります。

富士製薬工業には「良き伝統」と「GREATな目標」があります。

私自身「日々是好日」をテーマに、自分自身のGREAT SUMMITを目指す中で、経営理念である「企業の成長はそこに働く人々の成長に正比例する」を心がけて、中期経営計画のテーマである、富士製薬工業をGOODからGREATな会社への歩みに、少しでも力になれるよう、これからも頑張ってまいります。



## ジェネリックQ&A 2



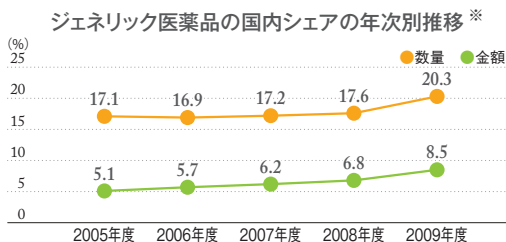
### ジェネリック医薬品は どのくらい普及しているの？

#### 欧米諸国に比べ、日本での普及率はまだ高くありません。

高齢化社会の進展に伴い医療費の高騰が続いている日本では、厚生労働省の主導で、新薬よりも安価なジェネリック医薬品の普及が進められています。その結果、下のグラフにもあるように、これまで17%前後で推移していたジェネリック医薬品の数量シェアは、2009年度には20.3%に上昇しています。

一方で世界各国を見ると、ジェネリック医薬品のシェアは、アメリカで71.6%、カナダで66.2%、イギリスで65.2%、ドイツで62.9%（2009年度・数量ベース）※と60%を超える使用率となっています。特に欧米では、新薬の特許が満了した1ヶ月後には、市場の約80%がジェネリック医薬品に切り替わるといわれており、ジェネリック医薬品が広く浸透していることがうかがえます。

欧米諸国に比べて、日本でのジェネリック医薬品の普及率が低いのは、ジェネリック医薬品自体への認知が進んでいないことも背景にありました。厚生労働省は、「2012年度までにジェネリック医薬品の数量シェアを30%以上にする」という目標を掲げており、ジェネリック医薬品の使用のさらなる促進に向けて、医療行政面での環境整備を進めています。



数量：出荷数量 金額：薬価ベース

※2009年度より調査方法が変わっているので単純な比較はできない。

※「日本ジェネリック製薬協会」調べ



富士製薬工業株式会社 Fuji Pharma Co., Ltd.

●IRに関するお問い合わせ

本社／管理部 〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7

TEL：03-3556-3344 FAX：03-3556-4455 URL：<http://www.fujipharma.jp/>